

2019年度 教職員の自己評価集計結果とその考察

藤認定こども園
藤幼稚園・藤保育園

A：よく出来ている、 B：まあまあ出来ている、 C：あまり出来ていない、 D：出来ていない

I 保育の計画性

		A評価	B評価	C評価	D評価
園の教育方針等の理解	園の教育方針や教育目標を理解する	17.6%	82.4%	0%	0%
教育課程の編成	園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	8.7%	78.3%	13.0%	0%
指導計画の作成	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	14.3%	81.0%	4.7%	0%
環境の構成	幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	12.9%	74.2%	12.9%	0%
	幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする	10.0%	80.0%	10.0%	0%
	楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	16.1%	74.2%	6.5%	3.2%
	幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする	10.0%	83.3%	6.7%	0%
評価・反省	自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かす	14.7%	79.4%	5.9%	0%

「園の教育方針等の理解」の項目では、「よく出来ている」（以下、「A評価」という。）と「まあまあ出来ている」（以下、「B評価」という。）「あまり出来ていない」（以下、「C評価」という。）「出来ていない」（以下、「D評価」という。）のうち、全員が「B評価」以上となり前年度よりA評価の割合が2%アップした。「A評価」の割合を高めていけるよう今後も努力を重ねていく。

「教育課程の編成」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて87.0%、「指導計画の作成」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて95.3%となり、前年度よりそれぞれ1.3%と5.8%アップした。引き続き、保育の計画を立て具体的に指導計画を作成していけるよう、職員の経験に合わせて指導・支援体制をしっかりと行っていく必要がある。

「環境の構成」の項目では、幼児の主体性や発達を考慮して保育環境を構成していると自己評価した者は「A評価」と「B評価」を合わせてその平均は90.2%で、「C評価」「D評価」と自己評価した者が平均9.8%となった。前年度より、どの項目においても「A評価」と「B評価」の割合が増加した。特に幼児の発達と園内での一日の生活を見通した環境の構成については、「C評価」が前年度の25%から6.7%まで減少した。「C評価」「D評価」と自己評価した者は、園児数が多い中でも少人数単位で活動するためどのように環境を構成するのかが課題と考えている。今後も研

究を重ね、課題の解決と「A評価」「B評価」の増加を目指して引き続き努力していく必要がある。

「評価・反省」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて94.1%で、「C評価」と自己評価した者が前年度の13.3%から5.9%へと減少した。全ての教職員が日常から自らの保育を評価・反省し、次の保育に生かすことを意識し改善に努めるよう指導していかなければならない。

II 保育のあり方、幼児への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
健康と安全への配慮	園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される時は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	31.4%	65.7%	2.9%	0%
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	22.9%	62.9%	11.4%	2.8%
幼児理解	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	26.5%	70.6%	2.9%	0%
	幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	20.0%	77.1%	2.9%	0%
	幼児の理解のために家庭との連携をとる	23.3%	66.7%	10.0%	0%
指導との関わり	幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	34.3%	65.7%	0%	0%
	幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	51.4%	45.7%	2.9%	0%
	幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	22.9%	74.3%	2.9%	0%
	幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	28.6%	68.6%	2.9%	0%
保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	21.2%	78.8%	0%	0%
	幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解を図る	32.4%	58.8%	8.8%	0%

「健康と安全への配慮」の項目では、園内の危険な箇所、危険な遊び方をしていないかについて常に配慮することについて「A評価」と「B評価」を合わせて前年と同じ97.1%であるが、そのうち「A評価」の割合が前年の12.5%から31.4%に向上した。「健康と安全への取組」は職員の意識にもかなり浸透していることが窺える。一方で、園内の清掃や整理整頓については、「A評価」と「B評価」の割合が前年の97%から85.8%へ後退し「C評価」と「D評価」の割合が14.2%となった。「C評価」と「D評価」とした者は、園内清掃が十分にできていない原因を、日々の予定や行事とその準備とやるべきことが多すぎるため掃除の時間が取れないと考えている。園内の清掃や整理整頓は子ども達の健康に重要なことであり、今後は適切なタイムマネジメントを意識することで、園内の清掃や整理整頓をより一層徹底していきたい。

「幼児理解」では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均94.7%であり、前年度より6.9%向上するとともに「A評価」の割合は倍増した。園内・園外の研修は、幼児理解について学ぶ機会が多くあり、幼児一人一人の理解に努め、発達に即した保育の実践を心掛けていることが窺える。

「指導との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均97.8%であり、「A評価」の割合が前年度より7.3%向上している。幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する、については「A評価」と「B評価」を合わせて100%となった。幼児への関わりをととも重視しながら保育に当たっていることが窺える。

「保育者同士の協力・連携」の項目では、「クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がけているか」の問いは、昨年に引き続き「A評価」と「B評価」を合わせて100%となった。「幼児について保育者同士で話し合い、共通理解を図っているか」の問いには「A評価」と「B評価」を合わせて91.2%であった。幼児について教職員全体で協力・連携することの大切さを理解しながら、共通理解を図ることを意識していることが窺える。保育者同士の共通理解を更に高めるため、日常のコミュニケーションと打ち合わせでの意見交換を活発に行っていきたい。

Ⅲ 保護者への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
情報の発信と受信	保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	30.0%	66.7%	3.3%	0%
対応上の心がまえ	保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	29.0%	64.5%	6.5%	0%
要望等への処理の仕方	要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する	23.1%	65.4%	11.5%	0%

「情報の発信と受信」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて96.7%であり、「対応上の心がまえ」の項目でも、「A評価」と「B評価」を合わせて93.5%となった。保護者からの相談や要望にはよく話を聞くよう心がけ、依頼や伝言にもきちんと対応するように心がけていることが窺えるが、「A評価」の割合は前年度とほぼ同じであり、「C評価」をした者がいることから、更に改善しなければならない。

「要望等への処理の仕方」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて88.5%となり、前年度より8.1%低下した。個人やクラス担当で対処したが、全体で検討して対処するべきだったと反省があることを受け、要望等への対応は、些細なことでも相談・連絡することを徹底するとともに全ての教職員が共通理解できるよう伝達手段を見直す。

Ⅳ 地域や自然や社会との関わり

		A評価	B評価	C評価	D評価
地域・自然・人々との関わり	地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	8.0%	84.0%	8.0%	0%
小学校との連携	地域の小学校の行事や公開授業に参加するよう努める	7.1%	42.9%	21.4%	28.6%
子育て支援と地域への開放	子育ての支援や地域への開放に努めている	15.8%	47.4%	31.6%	5.3%

「地域・自然・人々との関わり」の項目では、昨年は「B評価」85.7%、「C評価」が14.3%であったところから、本年は「A評価」と「B評価」の割合が増加し「C評価」割合が減少した。本年度は、昨年以上に園庭で植物を育てたり、野菜を育てたり、ビオトープを再整備したりするとともに、地域の方と一緒に活動する機会の充実に努めたことから、職員の意識も向上したことが伺える。今後も、引き続き更なる機会の設定と充実に努めていきたい。

「小学校との連携」の項目では、担当学年によって参加する機会が左右されるため、これまで「C評価」・「D評価」と答えた者が合わせて65%程度となっていたが、本年は初めて「A評価」・「B評価」の合計が50%となった。幼少の連携については、小学校教諭との意見交換や合同の研究の機会を設けて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図ることが教育保育要領で求められている。地域の小学校の行事や公開授業に参加する以外にも、意見交換の機会を設定できるよう地域の小学校と相談していきたい。

「子育て支援と地域への開放」の項目では、年間6回の“園庭開放”に加えて、昨年度から実施している“くまのみクラブ”を、地域の未就園児親子が集まれる場として本年度も実施した。子育て支援や地域への園庭開放に携わる教職員は特定の担当者に限られるが、担当者以外にも内容を伝達し、教職員全体で子育て支援について考え内容の充実に努めていきたい。

V 研修と研究について

		A評価	B評価	C評価	D評価
研修・研究への 意欲・態度	研修会や研究会には自己の課題をもって参加する	16.0%	48.0%	12.0%	24.0%
	自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	25.9%	48.1%	22.2%	3.7%

「研修・研究への意欲・態度」の項目では、資質の向上のため園内研修・園外研修の機会はできる限り取り入れたが、「研修会や研究会には自己の課題をもって参加しているか」の問いに「C評価」と「D評価」と答えた者が32%と、昨年度と同率ながら「D評価」の割合がより高くなり職種による違いが解消できなかった。今後も、引き続き研修会・研究会に参加する機会の確保とその体制作りにも努めていくとともに、職種に応じそれぞれが意欲的に参加できる機会を提案する必要がある。

「自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談しているか」の問いには、「A評価」と「B評価」と答えた者が74%となり、前年度より8.5%増加した。「A評価」の割合は19%増加していることから、相談しやすい雰囲気にはなっていることが伺える。今後も引き続き、何でも相談できる雰囲気作りと教職員間の相談体制の充実に一層努めていく必要がある。

2019年度 教職員の自己評価について の良かった点及び改善点

I 保育の計画性

園の教育方針等の理解

- ・園の教育方針については、十分理解できたと思う。PDCAを意識して、保育をすることを目指している。
- ・園の教育方針などを理解し、子ども達の発達に応じた保育ができたと思う。
- ・園の教育方針や教育目標を理解するために、職員会議や園内研修の議事録をきちんと読むようにしている。しかし、日々行われているミーティングの内容が記録されたノートを読む機会が限られているので、意識して目を通すように心掛けていきたい。
- ・園の教育・保育方針や目標、ねらいなどを理解・把握し、それに基づいて保育の計画を立てるという点は、特に自分に足りていなかったと感じるため、これから意識していく。

教育課程の編成

指導計画の作成

- ・細やかなクラスの計画などは、少しアバウトになってしまっていた部分もあったので、子どもたちのために、良い環境設定や保育内容を考えて保育を進めて行けるよう努力していきたいです。
- ・週案と年間の計画を立てながら、この時期までに育ってほしい姿を自分の中で持ち保育できたのは良かったと思う。
- ・週案をたてる事により、計画をもって保育を進めていくことができた。
- ・大きな行事の前などは、保育カリキュラムを行うことで一杯になり、自ら選ぶ活動の時間が減ったり遊べなかったりしたので、学期を通しての計画の重要性を感じる。
- ・週案月間指導計画を基にして、毎日の保育をすすめることが出来た。日々気付いた事を書き留めておき、振り返って次の日へとつなげるようにした。
- ・子どもの様子を見ながら、見通しを持って計画を立てたつもりであったが、予想外のことが起きたり迷いがあったりした。臨機応変に対応することと、きめ細かいところまで確認していき一人一人の今の様子を捉え、どんな所を育てていきたいか、振り返りながら計画を立てていく。
- ・週案などを作成するために、その時の子どもの姿を感じようといろいろな視点から子どもを見て、その姿に適切な対応は何か考えたり、いろいろな資料を参考にして計画したり、以前よりは具体的な計画をたてるようになった。
- ・週案をもう少し簡略化できるとよいと思う。
- ・ねらいと内容を主任が考えているが、主任の負担も大きく、クラスによって違ってくると思うので、各担任が考えた方がよいと思う。そうなると、学年のばらつきが出てくるので、話し合いは必須であるし、各クラスの週案を見比べることが必要である。自分で、ねらい・内容を考える

- ことで、人任せにせず自分のクラスをきちんと見つめられるのではないか。
- ・担任内で大まかな計画を話し合い、それぞれで指導計画案を立てることができた。また、上手くいかない場面ではどうしたらいいかを話し合いながら進める事ができたので良かった。担任6人のうち3人が昨年と同じであることから、昨年の様子を思い出しながら1年の見通しを持てたり昨年からの反省点も出し合って改善したりできた。
 - ・保育の計画を立てることは少なかったが、クラスの先生方と話し合いながら様々な活動ができたことは良かったと思う。ただ、クッキングなど1歳児の活動としては少し難しい活動もあり、子ども達が戸惑う事もあったので、そのような場合にも戸惑うことがないようにしっかりと話し合いたいと思う。
 - ・週案の期日が守れない事があり反省します。
 - ・クラスの先生が立ててくださった週案で保育することもあり、計画したものがきちんとできたかという、自分ではそうでないこともありました。その中でも、やるべきことは打ち合わせをして計画案にはないことでも、しっかり行えたと思います。クラス内での打ち合わせの重要性をとでも感じています。
 - ・子どもの成長や発達に合わせてながら保育の計画をし、一人ひとりに対応できた。
 - ・学年の子どもたちの様子を把握するように努め、遊びを通して色々なものにふれながら学んでいけるように計画してきた。また、クラスの子どもの様子から、保育内容を考え、環境を整えるようにできたと思う。

環境の構成

- ・保育室の環境も子どもたちの様子を見ながら、考え変えていくことが出来た。
- ・日々の課題でもあるが、環境構成が今年は本当に悩まされた。特に今年の子どもたちは自分たちで遊びを展開していくことが難しく、それに対してのいろいろな環境設定を試してみたが、なかなかヒットするものがなかった。年齢に応じたもの、プラスそのクラスのカラーを捉えた環境設定ができるように見直していく必要があると感じた。
- ・保育環境については自分では良いと思ってはいるものの、公開保育などで他の先生方から意見を聞くと、もっと子ども達にとって適切な環境設定ができたのではないかと考える。いろいろな角度からの見方があるので、今後もたくさんの意見を取り入れながら環境を充実させたい。
- ・環境の構成には特に気を配っていました。例えば、色画紙で数枚のページの本を思い思いに作成したところ、年長さんはなぞなぞの本、まだ字が書けない年少さんは星・ハート・チューリップ等の形に切った色紙を貼ったり、好きな絵を書き皆に発表する楽しい時間を持てるようにしました。また、でんでん太鼓を作り、わらべうたあそびを楽しみました。サンタの帽子を被ったもの、ねこやうさぎ、マフラーを巻いたものへとどんどん発展させていく子らの想像力には目を見張るものがありました。
- ・幼児同士が楽しく関わって十分に遊べるよう環境を整えてきました。
- ・異年齢保育の環境設定が上手くできず、もう少し勉強して幼児の発達を見通した環境設定ができるように努めていく。
- ・季節に合わせて、絵本や歌、塗り絵などを替えるように心掛けた。異年齢保育の中で、絵本を選

ぶことが難しく、年長児に合わせると年少児は途中で集中力がなくなり、その逆だとすぐにお話が終わってしまう。日々、子ども達の様子が違うため、2冊から3冊絵本を用意し、その日の様子を見て本を選ぶようにしたところ、概ね計画していたようになった。教材や工作をするための準備が十分でないため、更に工夫していく必要がある。

- ・毎月の制作については、事前にアイデアを出し合い、早めに準備に取り掛かることができていたと思う。保育雑誌の情報を元に、「寒天あそび」や「色水」「クッキング」を取り入れ新しい発見もあり、反省をいかし次につなげていけるような保育も、勉強していったのではないかと思う。
- ・環境構成では、難しさも感じるが、他の先生方の日々の保育や教えていただいたことを忘れず、子ども達の動線を考えて取り組んでいきたい。また、自分の保育を振り返り、反省し、次に繋がるように努力していく。
- ・今年度、2歳児は保育室を分け、生活面を中心に緩やかな担当制保育を行い、室内環境・人的環境共に、それぞれ試行錯誤しながらすすめていきました。初めての試みでしたが、現状でできることとして、少人数で落ち着いて保育できた事は良かったですが、課題も残ると思います。野菜の収穫や簡単なクッキングを経験したが、今後も子ども達に必要な経験や育んでいきたいことを見通した計画をしていきたいとします。
- ・子どもたちが、保育園が楽しく安心と思えるような場を作るように心掛けた。

評価・反省

- ・複数担任であったため、自分の思う保育を伝えきれなかった点があった。話しをする時間を作ることで改善していくことが出来ると思う。
- ・保育の振り返りのためにメモをとっていても、ゆっくり見返すことがなかなかできず、目先のことばかりの計画になることが多々あった。メモをもっと活用していきたい。
- ・園全体がより良い保育に向けて改革を進めているところであり、希望と期待にあふれた雰囲気は自分自身の新しい環境への不安を払拭してくれたような気がして、変わっていくことへのワクワク感で希望を感じながら保育にあたることができました。
- ・園児数が多いため、いろいろな活動を行うにあたり大変だなと感じます。学年やクラスでの大きな集団でまとまるよりも、もっと少人数のグループの方が活動しやすいし個々の子どもの様子がよく見え、ゆったり関わることができると思います。また、子ども主体の活動のはずが、行事の派手さ、行事のための練習・準備、決まっている予定が多いことなど、子どもが合わせることになり受け身の活動になってしまい、一番大切な自発活動の時間が十分にとれないといった保育になってしまっていて残念。行事の縮小や簡素化が、まだまだ必要であると思います。
- ・自分自身の保育の反省はなかなか出来ずマンネリ化しているように思う。
- ・子どもたち個人について、成長してほしいことを自分なりに設定し関わることができたと思う。
- ・細かな計画案を共有させて頂いており、補助的な動きがしやすいと感じています。その中で疑問や質問などは、その都度相談するようにしています。
- ・計画を立て、職員の連携を大切に、個々に関わることができた。
- ・学年としてのねらいを挙げ、内容もそろえるようにしてきたが、クラスによって姿が違い、計画を立てるときに難しさがあった。学年としての、その時期、その週のねらいは必要だが、内容は

それぞれの保育者のカラーがあってもよいのでは感じる。ただ、クラスによって大きな違いはないよう話し合う時間が必要になってくると思う。

II 保育のあり方、幼児への対応について

健康と安全への配慮

- ・園内で、危険な物が落ちていないよう気を付けて怪我することを防げたので良かった。毎月、安全点検票を記入しているので保育室の中のおもちゃや備品などの破損に気付くことが出来ている。
- ・健康と安全の配慮については、トイレ清掃についてマニュアルを作り全職員がポイントを押さえて行動することができていたと思います。
- ・外遊び時には、昨年と比較して見守っている職員が増え、また養護教諭がいることにより、園児と遊びこむ時間・場面が増えたと思います。
- ・園内清掃が十分にできていないことが気になる。日々の予定や行事とその準備など、やるべきことが多過ぎて掃除の時間が取れないので、週一回は時間と場所を決めて集中的に各クラスの清掃を行うのはどうでしょうか。また、コウモリの糞や鳥の糞、ゴキブリがでるなど子どもの生活の場には、あまりに不衛生で定期的な消毒と駆除が必要ではないでしょうか。
- ・ホームクラスのチームでは気になる子どもが多く、特に年少児で自分の思い通りにいかない場合、すぐに手を出すことがみられる。幼児同士のトラブルに対応するよう心掛けているが、同じことを繰り返すことがしばしばあるため、声をかけ落ち着くまでしばらく椅子に座ったり一緒に違う遊びをするようしている。ホームクラスでは、好きな遊びをして、のんびりゆっくり過ごすことができるように環境を構成している。
- ・子どもが死角になっているところで遊んでいる場合は、少しずつ移動し様子を見ながらケガがないように対応できたと思う。

幼児理解

- ・一人一人の子どもの気持ちや思いを受け止め、ありのままを否定せず受け入れることを心がけました。そのことによって、子どもの気持ちが満たされ、友達とも穏やかで楽しい雰囲気でも過ごせるようになっていくように思いよかったです。
- ・一人一人の性格や姿を理解し、個々へその子に合った言葉がけを考えられたと思う。成長を感じることも多々あった。
- ・今年度のクラスは、気になる子や配慮が必要な子が多く、それぞれの子の特徴を捉え、その子に応じた言葉がけや支援をするように心掛けてきた。また、自分のクラスの子や他のクラスの子の様子を普段の会話の中でお互い話をし、その子のためにみんなで見守り援助してきた。
- ・子どものたちの言葉に、耳をかたむけ、一人一人の声をしっかり聞くことができなかつたので、もっと子どもたちの声に耳を傾けていきたい。
- ・子どもの姿を受け入れ、発達段階に応じた援助をできるよう心掛けた。
- ・子どもの気持ちに寄り添いながら適切な言葉掛けをすることができない場面が何度かあったので反省し、今後子どもの気持ちに寄り添いながらそれぞれの思いを受け止めていきたい。

指導との関わり

- ・ 保育者と子どもとの信頼関係がしっかりできてから、苦手とする部分にも少しずつ、一緒に頑張れるように声を掛けたり、一緒にチャレンジしてみようと思ったりしましたが、なかなかうまくいかないこともありました。子ども達自らがやってみよう、今は頑張ってみようと思えるような、言葉掛けや関わりを工夫し改善していきたいです。
- ・ 日々の生活の中で、ハイタッチをしたり抱きしめたりして、子どもたちとスキンシップをとることを大切にし、保育を行ってきた。
- ・ ペップトーク（短い激励のスピーチ）を大切にし、保育を行っていききたいと思うが、時よりプットーク（短い激励のスピーチの逆）になってしまうので、ペップトークを心がけていきたい。
- ・ 一人一人の発達に見合った言葉がけを心がけていく。
- ・ 常に子ども達の日線に立って、落ち着いて話を聞いて理解していく。
- ・ 日々の子ども達の姿や関わりや対処法などの記録を残していく。
- ・ 子ども達への対応等については、個々に寄り添い、気持ちを受容し関わってきた。子ども達との信頼関係もしっかりできていると思う。
- ・ 子ども達の自ら選んで行う遊びがより充実できるように、日々、環境構成や行事にむけてのこちらからの思いを込めた仕掛けなどをよく考えてきた。また、同じ玩具でも継続的に変化をつけて遊び続けていけるようにその日の遊びを捉え、翌日に使用できそうな物を置いておいたりして継続的に遊びこんできた。いろいろな場所で様々なことがおきると、その対応に追われるだけで子どもの遊びと一緒に参加できないときが多々あった。改善方法を考えていきたい。
- ・ 幼児への関わりや援助の面で、じっくりと話を聞いたり気持ちを受け止めるよう努めた。少しずつではあるが、心を開いてくれるようになってきていることは良かった。
- ・ 保育者の思いを保育の中で出し過ぎないように心掛けていきたい。また、その子にとって何が必要な援助なのかを見極めていけるよう努めたい。
- ・ 遊びが充実したものになるように保育者同士の話し合いを増やし、環境を整えていく。
- ・ 担当する子どもとのこれまでの関わりを振り返ると、徐々に意思疎通ができるようになっており、友達とのトラブルも徐々に減少している。その都度、担当する子どもが理解できるような対処法を考慮している。進級に伴い、基本的な生活習慣（あいさつ、食事の箸使い、衣服の表返しなど）が身に付くように心がける。
- ・ 遊びの中でトラブルが発生したとき、話をしっかり聞きどうすればよいか、子どもたちと一緒に考え解決するように心掛けました。
- ・ 子どもたちの話をよく聞いたり、スキンシップは十分にとれていたと思う。目を離した時に、かみつきがあったり、トラブルに早く気付くことができなかつたことがあったので、今後も十分に気を付けていきたい。
- ・ 配慮が必要な子と一緒に過ごしていると、他児のトラブルの原因がはっきりわからず、どのように対処すれば正解なのか迷うことがあり、周りをよく観察できていなかったことを反省した。もっと注意深く視野を広く持てるように日々努力することが大切だと思った。
- ・ 子ども一人ひとりのその日の体調や、家庭環境や身のまわりの変化などを考えながら、関わっていくようにしていった。そうすることで子どもの気持ちに寄り添え、なぜこの様な行動、気持ち

なのかを配慮しながら保育できた。言葉のかけ方も否定的な言い方ではなく、肯定的に前向きな気持ちになれるよう心がける事で子どもの気持ちの切り替えに繋がった事もあった。ほぼ同じクラスに入る事で保育者も子どもたちも安定するので良かったが、たまに入るクラスでは信頼関係が出来ていない事もあり、対応が難しかったので担任の先生にも聞きながら保育していくようにした。

- ・月齢がさまざまなので発達段階に応じた適切な援助ができていたかを考えるとまだまだスキンシップも必要とし、常に目が離せないことを考えると手厚い人員配置が欲しいと思う。今年はフリーの先生にけっこうお部屋に入って頂けたので助かった。身体的にも精神的にも大きく成長する時期だからこそ一人ひとりとじっくり向き合っていきたい。
- ・一人一人の子どもその日の様子や発達に合わせて保護者の方と話し合いながら保育をすることができたことは良かったと思う。担当制をするにあたり保育環境がコロコロと変わったため1年を通して子ども達がなかなか落ち着くことが出来なかったのではないだろうかと思う事もあった。来年度は担当制のこともしっかりと学びながら環境作りもしていきたいと思う。
- ・子ども一人一人の状態や様子など踏まえて、保育に当たることが出来たと思う。
- ・今年度、自分の思うような保育ができなくて悩むこともありました。子ども一人一人にあった関わりをしていたつもりですが、活動や行事等に追われるとなかなかそういうわけにもいかなかったりもしました。集団生活をしていくうえで、いいこと、悪いことを教えていかなくてもいけない年齢でもあったので、個々に合った対応を難しく感じてしまうこともあります。悩んだときは、相談に乗ってもらったりして対応策を考えていけるようにしていきたいです。
- ・子ども一人一人の気持ちに寄り添いながら、楽しく保育できた。噛みつきやケガのないように、しっかりと関わる保育をしていきたい。
- ・子ども達と遊んだり、話をしたり、スキンシップをとったりすることで、信頼関係が築けていると実感できるようになった。子ども達同士の関わりも増えてきているため、その分トラブルも多い。怪我に繋がることもあったため、未然に防ぐように気を付けていく。そして、双方の思いを受け止め、子ども達が友達の思いに気付けるような言葉掛けや関わりをこれからも意識していきたい。
- ・一人一人のペースに合わせ、スキンシップを大切にゆったりと関わるように心がけた。また、季節の歌や童謡など子ども達に歌って聴かせたり、言葉がけも丁寧に優しく話すように心がけた。一人一人の思いに寄り添うことを大切にしていたが、何人か重なると対応できなかつたり、手のかからない子が後回しになってしまったり、が反省点である。
- ・春からの成長を経て2学期後半は、子どもたち同士のかかわりも増えてきた半面、けんかやトラブルも増えてきた。一人一人にあった対応を心掛け個別に対応していきたい。
- ・共に喜んだり悲しんだり、それぞれの思いを共感できるよう心掛けています。忙しい時間になると、片付けや準備など流れ作業のようになりがちなので、そんな時こそ丁寧に関わろうと考えています。
- ・子ども一人ひとりに寄り添える保育ができたと思う。クラス担任全員が、一人ひとりへの愛情が温かく、子どもたちにもそれが伝わってくれと嬉しいと思う。
- ・保育者が、子どもと共に楽しむことが第一。保育者が楽しんでいる姿に子どもたちも楽しみを感じ

じ、より楽しさを見出している。何事にも、子どもたちが何を感じ、何を学んでいるのかを感じ取れることだと思う。子どもたちの楽しみ方をともに共感できる保育者でありたいと思う。

保育者同士の協力・連携

- ・保育中は子どもたち一人一人と担任全員が向き合っていくべきだと思うが、クラスとしてできていなかった。年度初めに全職員であり方を確認しあえたらよかったと思う。
- ・保育者同士の協力・連携については、言葉足らずな所や誤解もあり躓くこともあったが、キャリアに関わらず大切なことはしっかり伝えあっていると思う。
- ・いろいろな個性の子どもたちがおり、担任としての責任、自覚の大切さを感じた年となった。加配教諭へ一任してしまう保育ではなく、担任としてどうクラスを作っていきたいか、きちんと意思をもって保育することが当たり前だと思っていたので、保育観の違いや差に戸惑ったし、どこまで他のクラスの保育に関与してよいかも考えさせられた。
- ・毎日の仕事に入る最初の10分間のミーティングは、共通理解を図る貴重な時間となりました。
- ・自分が所属する学年は、職員間でよく声を掛け合ったり子どものことについて話し合いができており、共通理解のもと保育が進められていると思います。お互いの思いを尊重したり励ましあったりと良い雰囲気があります。保育者間の雰囲気の良し悪しは、子ども達にとっても影響すると思いました。
- ・担任同士でよく話し合いながら保育を進めていくことができた。ゆるやかな担当制の保育として2グループに分かれていたが、子どもの様子を見ながらグループの入れ替わりを図る事で子どもたちもより安定した気持ちで過ごすことができていると感じる。
- ・子ども達が今、どのようなものに興味があるのか、どんな玩具が必要か見極め環境をどのように整えたら良いのか話し合ってきた。常に子ども達を目線になって、クラス担任がコミュニケーションをとって同じ方向を向いていたので保育もやりやすかったと思う。
- ・担任が同じ方向を向いて常に情報共有しながら保育を進められている。
- ・担当制については、まだ理解が深まっていない中進めてきたこともあり、保育者も子ども達も戸惑いがあったように感じたので、しっかりと保育者が理解した上で子ども達の様子を見ながらタイミングを見計らってスタートできると良いと感じた。1歳児については、新入園児が多いため、落ち着きだす夏頃から始めると良いかと思う。
- ・経験年数が異なる複数担任が、日々の保育の中で声をかけ合い子どもの姿や発達を共通理解することは難しく、個々の保育者の子どもに対する思いや受け止め方に差があることを感じました。保育経験の差も考慮しつつ、できる限り保育の中で子どもの姿を捉え、自分なりの関わりを具体的に伝えることで子どもの理解を深められるよう努めましたが、まだまだ課題は残ります。
- ・保育のあり方については、人それぞれではあるが、保育者として違うと感じること、自分が迷った時などは副園長、主任の先生等に相談していきたいと思う。

Ⅲ 保護者への対応について

情報の発進と受信／対応上の心がまえ

- ・日々の出来事を丁寧に伝えるよう努め、家庭での様子も聞きながら園と家庭とが同じ思いで進めてい

けるよう努めた。

- ・笑顔で元気に挨拶することを心掛けました。保護者の方々からのご意見やご要望など、すぐに解決するように気を付けました。保護者の方からの子育ての悩みなど、聞く機会も沢山あった中、適切な返答が出来るかの自信はありませんでしたが、「“すごくお母さんの気持ちわかります。うちも同じですよ。一緒に無理せず頑張りましょう！”の言葉だけで、すごく安心しました。ありがとうございます。」と沢山言ってもらったです。悩みを聞いてもらったり、共感してもらっただけでも、保護者の方の気持ちが、少しは楽になれるように思いました。今後も保護者の方々の方の気持ちに寄り添いながら、関わらせて頂きたいと思えます。
- ・保育室が2階ということもあり、保護者の方と話ができる機会が少ないので、姿を見かけたら声をかけ、話をするよう心掛けてきた。また、連絡帳を活用して、行事や普段の様子を伝え合ってきた。何よりも、子どものことを通して、保護者自身が担任と話をもっとしたいという気持ちが伝わってきたので、その思いをしっかり受け止めてきた。
- ・毎朝、笑顔で挨拶することを心がけた。
- ・登降園で出会えない方や、バス通園の方とのコミュニケーションの取り方としてメールの活用を行っていききたい。
- ・連絡ノートや電話でのお尋ね、依頼については、必ずメモをしてなるべく早くに答えるように心がけている。保護者からの苦情については、きちんと記録をして主任や園長に伝え相談をし、指示を仰ぐようにしている。また、誠意ある態度を心がけて信頼関係を築くように努めている。
- ・子どもの姿を伝えるという点では、分かりやすく具体例をだしながら伝えられるよう心掛けていく。また、良い点だけでなく課題となることや、どんな関わりをしているかも詳しく伝え保護者との共通理解を図り、保育に努める。
- ・保護者の思いや要望等を真摯に受けとめ、どのような解決策があるか、今後どのようにしていけば最良なのかを考え、保護者と一緒に育ちについて話し合ってきた。いろいろな手段を考え、試みてみたが、うまく支援・援助できない時もあるので、今後も保護者と連携を取りながら子ども達の育ち・学びを考えていきたい。
- ・保護者からの相談・要望・質問に関しては、話をよく聞くよう心掛けていましたが、十分な対応ができていたのかは不安もあります。じっくり話をし、しっかり様子を伝えるのは用件によっては朝から保育を担当している職員にお願いすることが多かったかと思えます。
- ・子どもたちに、いつもと違う様子が少しでもあるときには、保護者に必ず伝えるように心掛けました。
- ・保護者の方への対応は、しっかり話を聞いて丁寧に対応してこれたと思う。今後も保護者との信頼関係が崩れないように丁寧に対応していきたい。
- ・保護者とお話しする機会は少ないが、その分挨拶だけは必ず自分からするようにしている。自分が担当する保育のお迎えの方には、翌日に行事が控えている場合、持ち物や服装について一言お伝えするようにしている。
- ・担任からの情報は、とても重要だと実感した。14時から17時30分までの時間も保育がしやすくなり、保護者のお迎え時に子どもの様子を伝えやすくなった。
- ・お迎えの保護者が急いでみえる時に、保護者が子どもに声をかけても自分のペースで親の思うよ

うに動かない場合、早く準備ができるように自分が手助けするよう心掛けている。(小学校に上がる前に、荷物の準備は子ども自身でできるようになって欲しい。)

- ・心から安心できるよう、信頼関係を築きながら、対応しています。自分の子育ての経験を交えながら話すこともある。
- ・保護者とはなかなか会う機会がなかったので、会った時の挨拶はしっかりしていくようにした。
- ・日々の連絡ノートで保護者の方へ園での子どもの様子を丁寧に伝えられるときとそうでないときがあったので、今後できるだけ丁寧に伝えられるように心掛けたい。送迎時にもなるべく保護者の方とコミュニケーションをとるように努め、園と家庭と一体となって子どもの成長を見守りたい。
- ・初めて集団生活(園生活)を送る子が多い学年なので、家庭での子どもの様子を聞いたり、保育園での様子を伝えるなど、保護者の方とのコミュニケーションをしっかりと取るように心掛けた。実際に保護者の方から様々な話を聞かせて頂いたり、相談をされることもあり、ゆっくりと時間を掛けて対応することができたことは良かったと思う。また、話しやすい雰囲気を作れたことも良かったと思う。
- ・子ども一人一人の情報を共有することに努めていたので、どの保護者にも適切な対応をとることができたと思う。シフトの都合で、当日直接お会いすることが難しいお家の方には、ノートでお知らせした。
- ・直接お目にかかる方が勤務上限られてはいるが、対応させてもらう時は子どもが頑張っていることや出来たことなどエピソードを伝えるようにしてきた。
- ・シフトの都合により直接お伝えできない場合は、当番の保育者に伝えてもらうよう連携を取るようしてきた。
- ・お部屋の子ども達から目を離すことが無い様に、担任で送迎の対応する者を決めていけるとトラブルが少なくなると思う。
- ・保護者対応に関しては毎回どのようにしていったらいいか悩みますが、クラス内で何を伝えるのか、きちんと共通理解し漏れのないように気を付けました。また、連絡ミスのないようにホワイトボードにメモしたのもよかったです。
- ・保護者と接する機会は少ないが、会ったときには、その日の子どもの様子を伝えるように心がけた。
- ・最初の頃は連絡事項を伝えるだけで緊張し、保護者の方と話すことが苦手だったが、自分から笑顔で挨拶することを意識し心がけた。そして、一日の子どもの様子を思い返し、楽しんでいたことなどの出来事を話すようにしたことで、保護者の方と話すことが楽しいと感じられるようになった。お家での子どもの様子なども保護者の方から話していただくことが多くなり、一緒に子どもの成長を見守り、関わることができていることを嬉しく思う。
- ・保護者に子どもの姿を伝えることで、子どもにとってより良い環境を考えていく、という姿勢を心がけ対応しました。中には、保護者にとってはデリケートな件もあり、今後も引き続き丁寧に対応していきたいと思います。また、副園長をはじめ、こうした保護者対応に経験のある保育者に事前に相談し助言をもらったり、同席していただいたことから、慎重に話合うことが重要だと感じています。

- ・人数も少なく、登降園時にお会いできる保護者とは、子どもの健康状態や様子についてお互いに情報交換もでき、信頼関係も上手に築くことができていると思う。なかなかお会いできない保護者とは連絡ノートや参観、お会いできた時にできるだけコミュニケーションを取れるよう心がけたつもりだが、保護者側はどう思っていたらいいのだろうか。
- ・それぞれの子どもに対して何か連絡がある場合は、保護者にきちんと伝えることができたと思う。保育園での日々の生活の仕方も伝えることが出来たのではと思います
- ・その日の出来事や、今までの成長過程の中で保護者に伝えておきたい出来事をその日のうちに伝えることができたと思う、また保護者の方とその子の成長を共感したり悩んだりして日々お互いに成長しあえる関係を築けたと思う。しかし、同じクラスでもグループが違っていると、なかなか日々関わることが少ない子もおり、グループが違っても同じクラスとして目を配っていきたくと思う。
- ・保護者の方がとても温かく、子どもの様子を知らせたり、連絡等、快く聞いてくださり感謝です。また、保護者の方からも気楽に何でも話ができるように信頼関係を築いていきたいです。
- ・普段より、お家の話、子どもの成長について話し連携を取ってきた。また面談を通してその子の成長だけでなく、その子がもっている困り感を話したり、乗り越えようとしている壁についても話すようにしたりしている。課題や今後の取り組みを詳しく話すことで、お家の方とも連携を取るようにしている。今後も家庭と連携を取りながら、子どもの成長見届けていきたいと思う。

要望への処理の仕方

- ・今後も適切なアドバイスなどができるよう、園長先生や主任の先生と話をさせて頂き、より良い対応を心掛けていきたいです。
- ・保護者の方とは、連絡帳や、お迎えの時間に個々の様子を話したり家での様子を聞きながら連携をとって保育をしていくことができた。バス通園の園児にはなかなか会える機会がなかったので、コドモンを活用しながら対応できれば良かったと思う。
- ・連絡ノートでの対応だとすぐにお返事ができず一日預かったりして時間がかかることあったが、コドモンを利用することでリアルタイムに対応することができた。園バス利用の子は直接お家の方と会えないので、怪我の対応など場合によってはお家に訪問して直接お話することで安心していただけた。保育者の対応の記録が大きなことぐらいしかとれていないので、細かなことでも記録して自分の記憶に残していきたい。
- ・保護者とは、真摯に向き合っているつもりだが、自分の立場から同学年の他のクラスの保護者とのように接したらよかったのか、自分にできることがあったんだろうな・・・と思うと心が痛い。
- ・困っていることや悩み、園への要望など、もう少しじっくりと聞く機会をもてればと思った。
- ・保護者対応について考えることが多くあり、自分自身改めて学ぶべきこと勉強になることが多々ありました。クラス内で解決しようとせず、些細な事でも相談・確認しながら進めていくべきだった、と感じました。保護者の意向に沿うことが目的ではなく、子どもが主体になっていない結果として目指すところを見失ってしまうのだということもつくづく感じました。
- ・保護者からの要望があった際、クラスや園全体で話し合いできる限り保護者の要望に応えること

ができた。また、早番遅番などでもクラスをまたいで保護者との何気ないやり取りをしたり、その時々の子どもの様子を話せたりできたので良かった。クラス内の気になる子の保護者への対応や、今後の加配についての話などをすべて主任の先生に任せてしまっていたので、どのように対応するか等のアドバイスを貰いながら少しずつ対応できるようになっていきたい。

- ・保護者からの要望やご意見は忘れないようにメモにし、園全体で把握できるように連絡するようにはしました。その時には、保護者の方にも園の対応策をしっかりと伝えさせていただき、安心していただけるようにしていくことが大事だと思うので、これからもしっかりとした対応を心掛けていきたいと思えます。

IV 地域や自然や社会との関わり

地域・自然・人々との関わり

- ・保護者のボランティアの方々に芋ほりなど様々な行事で手伝って頂いたり、関わる機会が沢山あり、子ども達も嬉しそうにできてよかったです。今後も様々な方と沢山関わるなかで、「ありがとう」の気持ちを持てると良いと思えます。
- ・地域の自然などもっと、関わっていききたいと思えます。
- ・お散歩にいて地域の自然を感じる機会が少なかったと思うので、もう少し機会を作れたら良かったと思うが、保育者の人数も限られているので、計画性をもってなるべくお散歩に行ける日を月の初めに計画していければ良かったと思う
- ・今年度、なかなか散歩に行くことができず、園外での四季の自然を感じる機会が少なかった。
- ・地域の自然や主な施設について、名称を知っておくと共に、場所や連絡先を把握しておくようにしている。
- ・自然に囲まれ、恵まれている環境にあることを幸せに感じます。この自然を活かした保育環境を整えていきたい。
- ・地域の方と直接かかわる機会は少ないが、近くの公園に散歩に出かけた際、保育者が行違う地域の方に挨拶をすると、子ども達も自然に「こんにちは！」と挨拶をする姿があり、家庭での親子の関わりの中で学ぶだけでなく、園での保育者の姿からも子ども達は学んでいるのだなと嬉しくなる場面があった。
- ・園外保育の時に会う、地域の方や園に訪れる来客の方にその時に応じた挨拶「おはようございます」「こんにちは」など子どもたちと一緒にしてきた。返事が返ってくると喜んだりして、挨拶でコミュニケーションがとれる喜びを感じてきた。園内の自然物には十分なぐらい関わったが限りがあるため、園外の自然物にも目がむけていけるような計画を立てたり、時間の確保を考えていけたらと思う。
- ・地域の方との花植えは良かったと思う。盆踊りを覚えに来てくださっていたので、一緒に踊るなど交流ができたら良かった。
- ・地域や社会との関わりをほとんど持てていなかったので、改善していけるよう努めたい。
- ・普段の生活の中で、施設の場所、交通機関、行事などについて知ることができます。参加できる行事には、防災訓練、自治会での清掃、夏祭りなどがあります。それらに積極的に参加しています。その中で、卒園生だけでなく地域の子供たちの成長の様子を垣間見ることができ楽しい発見

もありました。

- ・園外保育に出掛けた公園で、その場に居合わせた親子に対し園児が遊具を占領してしまい申し訳なく思う場面があるので、他の方に失礼のないよう見守りながら声掛けをしてきた。散歩で近くの公園に出掛けた時には、とても喜んでくれる様子が伝わってくるので、もっと機会を増やすことができる良い。
- ・芋掘りや焼き芋パーティー、花育といった自然と触れる機会を通して地域の方とも交わる機会を持つことができました。
- ・園内の花壇やビオトープで出会える動植物はほんのわずかですが、園外に出ると保育園舎の裏を少し歩けばもっとたくさんの生き物と出会うことができます。園外への散歩が特別なことではなく、日常のこととして気軽に散策を楽しみ、虫や植物との体験をたくさんたくさん持つことができるようにすることが、自然への興味を深めるために必要なことかなと思います。
- ・子ども達と散歩に出かけることで、去年までは気が付かなかった自然物や風景に気が付いたり、初めて通る道を歩いてみたりと自然に触れることができました。また、地域の施設の方々とも連絡をとり、地域のお年寄りや施設の職員の方との交流も図ることができたので良かった。今後は地域の郵便局を利用して手紙をだすなど、さらに地域社会との関わりを増やしていければと思った。
- ・地域の方とは散歩の際に近所の方と挨拶をする程度だったが、保育者が挨拶をする事で子ども達も保育者の真似をして自ら進んで挨拶をする様子が見られたことは良かったと思う。
- ・畑や花壇を作っていただいた事で、季節の花を目にすることが出来たり、野菜の収穫をしたりして、その後のクッキング活動に生かすことが出来た。
- ・散歩をしたり近くの公園に出かけて遊べる活動は、新鮮さがありとっても良いと思う。
- ・アサギマダラの飛来は、毎年の楽しみになり、地域の方が観にこられることも多く良いふれあいの場に繋がっていると思う。
- ・今回、青い鳥の利用者さんとの交流を2回ほどさせていただきました。時期的に寒かったこともあって短い時間でしたが青い鳥の利用者さんとの触れ合いは、子どもたちにとっていい経験になったと思いました。これからは機会があれば交流を続けていけたらいいなと思います。
- ・お散歩や公園に行き、自然と関わるすることができた。
- ・子ども達と散歩に出掛け、公園で思い切り体を動かして遊んだり、どんぐりや松ぼっくりなどの自然物を拾ったりして、楽しむことができた。また、散歩の際に出会った地域の方と挨拶をしたり、青い鳥の職員の方々や高齢者の方々と話をさせていただいたりして、子ども達と一緒に地域の方と交流することができ、良かった。園周辺の道や施設、交通量などについて、より詳しく学んでいきたい。
- ・少しの時間ですが、園庭開放で交流したり、青い鳥で入所しているお年寄りの方と挨拶をしたり少し触れ合ったりと、無理なく交流できたと思います。2歳児がお年寄りと交流することは今年が初めてで、秋からとなりましたが、今後も続けていくなら年度始めに計画することでもう少し交流の幅が広がると思います。
- ・戸外遊びの時や、散歩の時に道端や園庭に植えてある花や葉っぱなどを子ども達に触れさせたり、近所の人に会ったら笑顔であいさつが出来たと思う。
- ・季節を感じる自然物などを散歩や外遊びの時などに子どもたちに伝えられたと思う。

- ・計画を立てて頂いた中、散歩によく出掛けます。道路の歩き方や危険なことを伝える機会も良いと思います。木の実や草花など、その時期にしか見られないものを発見できるよう、心掛けています。幼児同士が手をつないで歩くので、前との間隔が開くと走って転ぶことがあります。歩くペースも配慮していきたいと思います。
- ・散歩の機会をもち、自然に触れ、季節を感じる事ができた。
- ・行事に追われ、ゆっくり園外保育に出かけることが出来ていない。時間や気持ちに余裕のある保育を心がけるには、やはり行事を見直す必要があると思う。また保育者自身に余裕がない実態がある。仕事の量が明らかにキャパオーバーしている状態である。もっと保育環境を整えていきたいが、時間が圧倒的に足りない。行事や保育内容、またやるべき仕事のスマート化をお願いしたい。子どもたちに、何が必要なのか考え、子どもたちが自ら考える力が育つために、どこに重きを置くのか考えていけないと思う。

小学校との連携

- ・小学校との交流がもう少しあってもいいのかなと感じた。時間的にも難しい部分もあると思うが、こんなにも近くにある環境なのに、もったいなく感じる。交流のために何かをするのではなく、普段の何気ない時間を一緒に過ごしたり、遊んだりする機会が増えるといいと感じた。

子育て支援と地域への開放

- ・くまのみクラブを担当した時には子どもだけでなく、保護者との会話も大事にし、普段の悩みや思いを聞いていくようにし、楽しくスッキリした気持ちで帰ってもらえるよう心掛けた。

V 研修と研究について

研修・研究への意欲・態度

- ・日々の保育で生かしていきたいと思うことは沢山ありましたが、日々の保育で実践できていることは、学ばせて頂いたほんのわずかだと思いますので、しっかり保育に取り入れるように工夫し、改善していきたいです。
- ・研修は、公開保育など積極的に参加できた。研修の中で学んだ保育を自分なりに取り入れていけたと思う。環境をつくっていくことが思うようにできなかったのも、いろいろなことを早めに進めていくよう努力したい。
- ・他の園の公開保育はもちろん、今年度は園内研修として、各学年の公開保育を行ったことがとてもよかった。身近な先生たちの保育を見られたことは、とても新鮮で、先生たちそれぞれのカラーがあり、自分の保育にもぜひ取り入れたいと思ったものがたくさんあった。ただ、公開保育のための保育ではなく、普段の何気ない保育が見られるのもっといいと感じた。
- ・園内研を定期的に行うことで、自らの振り返りや資質向上につながっていった。
- ・園内公開保育は、周りの保育者の行動や言動を改めて知ることができ、自らの保育に生かすことができた。
- ・研修では、職員同士の信頼関係や同じ方向を向いて仕事ができるコツや方法を学びたいと思います。また、自分の考え方の癖や思い込みに気付き客観的に自分を見られるようにしたい。言葉は

「言霊」と教えてもらったことがある。一度、口にだしてしまったら取り返しがつかないので発言内容は慎重に行っていきたいと思います。

- ・今年度は、様々な研修に参加させてもらい、よい刺激となりました。常に自己課題を持って、参加できると、より充実した研修になると思いました。
- ・様々な研修に行かせていただき、自分自身の保育の糧になっていったと思う。また、園内研修での事例発表では、自身の保育を文章にまとめることで、細かな部分の振り返りができた良い機会であった。
- ・公開保育など実際の保育や環境を見せいただくことで、自分の保育の振り返りができたり、今後の保育の参考にできたりしてよかった。また、研修で学んだことが頭の片隅にでも残っていると実際の場面でハッと気付かされたり、より観察しようと思ったりすることがあった。その経験がもっと自分の保育に実践できるように、ゆとりのもった保育ができるように、まず自分の性格や弱さからみつめなおしたい。
- ・夏の宮里先生の講演会は、とてもよかった。キャリアアップ研修の講師だった明柴聡史先生に、藤認定こども園の課題や問題点を学べたらいいのと思う。子どもの見方とか、子どもの育ちとか、幼児教育で大切にしたいことについて、どんなに間近で素敵な講習を受けて学んでも保育に活かされていなかったり、自分の役割を認識できなかつたりするので、ペップトークで実際に現場で指導してこられた先生に直接的確に伝授してもらえるといいのになと思う。
- ・研修会の時間が家庭の事情で出られない時間が多く残念です。
- ・津市のNPO法人主催のファミリーサポート講習会に参加しました。特に『あるがままを愛する今のままのあなたでOKよ』では、子どもの気持ちに寄り添うこと、親・保育者が先回りして問題を解いたり解決してやるのではなく気持ちを聴いてあげることが大切である。自己肯定感をしっかり持つことができた子は土台がしっかり安定した人格を育てることができる、という話に保育の大切さを再認識しました。これからも研修会、学びの場には参加してスキルアップを図りたいです。
- ・園内研修に参加し、職員のいろいろな思いや様々な視点を聞くことができ勉強になった。また、園外研修に参加した職員から、今の自分に必要だと思う資料のコピーをもらったことは、とてもありがたかった。
- ・園内での研修や保育の研究、外部講師による研修など様々で、たくさん勉強できる機会に恵まれ、日々の保育の見直しや活力になりました。また、新たに知識を増やし、ステップアップできるチャンスとして自己研鑽を積むことが、より良い保育に繋がることを改めて感じました。時間が合わず出席できないことも多いが、このような機会を設定してもらっていることはとてもありがたいです。
- ・自主的に研修に参加したり、県外の大きな研修にも参加させていただいたりしてたくさん学ぶことがあった。研修での内容を保育で実践するなど自分のためになる内容が多くあった。来年以降も研修や研究に積極的に参加していこうと思う。園内研修では、写真を使ったり実際の保育事例を聞いて話し合ったりすることで、他の先生方からの目線や考え方に気付くことができた。普段話し合わない先生とも話し合う場となり、いい機会だと思った。
- ・ほとんど参加できていません。参加された先生からお話を伺うようにしています。

- ・研修は勤務時間的になかなか参加できなかったが、参加できた園内研修や外部講師の先生に来て頂いた時には、自分の保育を見つめ直しながら聞けたり、今後の保育にいかせられる事もたくさん聞けたので良かった。
- ・保育者としての専門性を高める為の研修は必要であると思うが、勤務時間外の研修の参加はなかなか難しい。園内に外部から講師が来ていただきお話を聞いたことはよかつたし、参考になった。
- ・今年は研修や会議など様々な事に関わることが出来たと思う。今後も都合が付く時は積極的に参加することができるようにしていきたいと思う。
- ・勤務上、時間外の研修会議等には出席することが難しいが、研修内容を必ず報告してもらえるところはありがたい。
- ・今年度は、園内研修や園外での研修にもたくさん行かせていただき、学びの多い年になりました。たくさんのお話を聞かせていただくことで、今までの自分の中にはなかった考えや発想を思いついたり、とても勉強になることがたくさんありました。そして、現場で実践してみたり参考にしてみたりして、これからも自分なりのいい保育を目指していきたいと思います。
- ・新規採用研修会などの研修に参加させていただき、新たな知識を得ると共に、改めて自分の日々の保育を見つめ直すことができた。また、他の先生方の体験談を聞いたり、自分の保育に対する悩みなどを話したりする場を設けていただいたことで、学びに繋がり、より前向きな気持ちで保育に臨むことができた。分からない点は他の先生方に質問し、丁寧に指導していただけたので、それらを活かしこれからも学びの姿勢を忘れずに取り組んでいきたい。
- ・園内ではポートフォリオや、更にはドキュメンテーションへと学びを広げていく過渡期ですが、私はまだまだ努力が必要と感じています。研修等で知れば知る程、技術や文章力はもちろんですが、それ以上に子どもの姿の捉え方など保育者として問われることも多く、努力していかなければならないと感じています。
- ・自分なりには発達や遊び、手作りおもちゃなどについて保育雑誌やインターネットで疑問に思ったことや困ったことまた情報を取り入れるようにはしたが、園内や園外の研修には参加できていない。可能であれば昨年度のように午睡時間に研修をしていただけるとパートも参加できると思うのですが。
- ・園内の研修には積極的に参加できるよう時間を調整した。しかし、園外の研修にはなかなか参加することが難しいこともあり、今後は時間を調整するよう努力していきたいと思う。
- ・前年度より研修も充実し、とても勉強になった。日々の保育で反省すべきこともあり、良い経験をさせて頂きました。
- ・公開保育に参加し、色々な園の保育を見せていただき、環境や保育者の思いなど参考にさせていただくことができた。今後も各種研修に参加させていただき、保育力を向上できるように努めていきたい。
- ・今年は、たくさん研修に行かせていただき勉強になりました。それを日々の保育にいかせられるよう努力していきたい。

保育のあり方や悩みについての相談

- ・保育のありかたや悩みについては、学年の先生や園長に聞いてもらい自分でどうするかを考えて仕事にあたるようにしている。また、意見が異なるときや共感を得られないときは、繰り返し話をし理解を得られるようにしていきたいと思う。
- ・学年主任、園長、副園長が時に悩みや思いを聞いてくださり、話を親身になって聞いてくださる恵まれた環境に感謝することが多かったと感じています。上司の職員からのアドバイスにより気持ちが軽くなれたので、迷った時には自らの思いを正直に話していくことが大切だと思いました。